

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
1年後期	1	2	選択
担当教員			
矢野 正俊			
添付ファイル			

講義概要	<p>わたしたちにとって「文明」は、いま、あたりまえとなっています。「文化」は、といえば、本来の力を失い、いわば化石と化しています。「あたりまえ」となった「文明」をしっかりと意識するには、過去からではなく歴史的な現在（わたしたちの「いま・ここ」）から「文明」の出現を明らかにする必要があります。また固く閉ざされた「文化」は、これを生き生きと動かすことです。かんたんではありません。</p> <p>しかしながら、十年前の東日本大震災、および、わたしたちが渦中にある「新型コロナ」は「文明」と「文化」をわたしたちの「いま・ここ」から意識し、動かしていく貴重な視点を与えてくれています。問題はどこにあるのか。ともに考えていきましょう。</p>
授業計画	<p>1 わたしたちにとって、いま、「文明」とはなにか？「文化」とは？（？）からのスタート。あたりまえとなった「文明」。便利で、なんにでも使える「文化」という言葉。まずは「文明」という言葉。「文化」という言葉に疑問符をつけてみましょう。スタートは（？）です。</p> <p>2 「東日本大震災」そして「新型コロナ」から、「文化」と「文明」を考える。「大震災」と「疫病」は、あたりまえとなった「文明」を意識すること。本来「文化」が持っている生き生きとした力を発見するためには、どのようにアプローチしたらよいか。を教えてください、と思います。めったにない機会です。しっかりと考えていきましょう。</p> <p>3 「文化」と「文明」のルーツを考える。比較することの大切さ</p> <p>4 「文化」/ culture &lt; cultivar (耕すこと) ⇔ 「文明」/ civilisation &lt; civiliser(《civil》にさせること)</p> <p>「文化」「文明」を考える前提としての「風土」について ① 「砂」の風土：ネットワークする力。アルファベット文字・貨幣のルーツ。キーワードは「遊」（移動=ノマド）。</p> <p>5 「文化」「文明」を考える前提としての「風土」について ② 「石」の風土：外に進出する力。競合する文明。 / 「フロンティア・スピリット」。キーワードは「外へ」。</p> <p>6 「文化」「文明」を考える前提としての「風土」について ③ 「泥」の風土：内に蓄積する力。南東アジア、とりわけ日本。 / 「一所懸命」。キーワードは「内（うち）」です。「内」と「うち」との差異。</p> <p>7 「石の文明」はなぜ普遍化することができたのだろうか？ 人類史におけるコペルニクス的転回としての「近代化」。「近代化」という「人類史の本質」（渡辺京二）を達成したヨーロッパの「文明」を考える。 《CIVIL》とは？「CIVIL函数」(!)を考える。</p> <p>8 近代文明の普遍性について考えてみる。「ポリス/オイコス」から「エコノミー」に至るまで。「市民社会」I</p> <p>9 [古典古代] / [中世] / 「近世」を、わたしたちの「現在」から考える。近代文明の普遍性について考えてみる。「ポリス/オイコス」から「エコノミー」に至るまで。「市民社会」II</p> <p>10 [近代] をわたしたちの「現在」から考える：「社会」「国民(国家)」「家庭」「個人」の誕生。 日本の「文明開化」の特質。①「訓読」という「文化盗り」（白川 静） 日本はなぜ、「石の文明」の「文明(civilization)」をアジア（「泥の文明」）で唯一、可能にさせることができたのだろうか？ 「漢字」（中華文明）を「訓読(法)」、すなわち、意味をとりながら直接的な形で読む方法。いわば文字の同時通訳。という世界(史)に類例のない方法を発明した日本の特異な力について考えます。</p> <p>11 日本の「文明開化」の特質。②「文明開化」の文体としての「訓読体(文語体)」(齋藤希史) 齋藤希史『漢文脈と近代日本』(2007年)、夏目漱石「現代日本の開化」(明治44年の講演)などをもとにして、日本の「文明開化(近代化)」の特異な困難さ。現在にまで続いている問題点。これからの方向について考えます。</p> <p>12 《SOCIETY》とその翻訳語である「社会」を例として、日本の「文明と文化」を考える。 《SOCIETY》の翻訳語が「社会」ときまる(あるいは《ECONOMY》が「経済」と翻訳される)経緯を辿ることで、日本がどのように欧米型の「文明」を、いわば耕す(cultivate)ことによって、「文化」を築き上げてきたかを考えます。</p>

	<p>13 「泥の文明」の力である「内への蓄積」を徹底させた日本の「うち」について。「うち」について考える。外国の言葉に訳すことのできない「うち」とは？</p> <p>14 「コメ作り」、「モノ作り」そして「漫画・アニメ」などを例として、考えます。</p> <p>「文明」を cultivate (耕す) してきた日本の「文化」。</p> <p>「民族の生きる固有のかたち」(松本健一)である「文化(culture)」が開かれ、普遍的となって世界(史)の「文明」は誕生してきました。ところが日本では、「文明」をいわば cultivate(耕す)することによって、「文化」は生まれてきたように思います。高度な中華文明の大陸(continent)と、その先に行くことのできない大洋(ocean)とのあいだに挟まれたわが国の宿命的な位置、および独特の「うち」(蓄積)の意識によって形成されてきた日本の「文化」を考えてみます。</p> <p>* 「課題」の検討(受講生の回答のうち、模範的なものを披露する。あわせて疑問・質問を募る。)</p> <p>15 いま、わたしたちは「文化と文明」をどのように捉えることができるだろうか。 いま、わたしたちは「文化」と「文明」をどのように捉えられているだろうか？そして、これからは？ これまでの授業を顧みながら問題点を明らかにしたい、と思います。「文明」とは決して「あたりまえ」ではなく、「文化」はつねに現在の生きた活動であり、過去の遺産と化したときに死ぬものであることが理解できたでしょうか？</p> <p>16</p>
授業形態	<p>講義。資料となるプリントを配布し、これを中心に講義をする予定。</p> <p>「アクティヴ・ラーニング」；毎回の「課題」の回答から、適宜、ピックアップしてコメントをする。</p>
達成目標	<p>「文明」のこれまでの歴史的な展開、現在の問題点、そしてこれからのありかたを、「文化」と対比することで理解することを目指します。「文明」としっかり向き合うことのできる「文化」の生きたかたちを、自分なりに把握できることが目標です。</p> <p>究極において、わたしたちは、いま、人類史の大きな転回点を生きていること。このことのもつ意味をしっかりと把握することを目標とします。</p>
評価方法・フィードバック	<p>期末のレポート試験60%および「課題提出」40%</p> <p>「原則として、レポート・小テスト等のフィードバックは次回以降の授業内で実施する」</p>
評価基準	<p>1) 「秀」：「文化と文明」の系譜をしっかりと理解し、現在の「文化」と「文明」のそれぞれの困難さの所在を把握し、「文化と文明」のこれからの姿について、問題意識をもつことができている。(100~90点)</p> <p>2) 「優」：「文化と文明」の問題点(どこに困難さがあるのか)についての的確に述べられており、私たちの「現在」にたいして問題意識をもつことができている。(89~80点)</p> <p>3) 「良」：講義の内容をよく理解して、「文化と文明」について問題意識をもって述べるができている。(79~70点)</p> <p>4) 「可」：講義の内容を理解して、「文化と文明」について述べるができている。(69~60点)</p> <p>5) 「不可」：問題意識がなく、講義の内容がまったく理解できていない。(59点以下)</p>
教科書・参考書	<p>参考書：松本健一『砂の文明・石の文明・泥の文明』岩波現代文庫 2012年</p> <p>『漱石文明論集』岩波文庫</p> <p>斎藤希史『漢文脈と近代日本』角川ソフィア文庫 2014年</p> <p>ジャック・ル・ゴフ『子どもたちに語るヨーロッパ史』ちくま学芸文庫 2009年</p> <p>柳父 章『翻訳語成立事情』岩波新書 1982年</p>
履修条件	<p>日々の出来事に、注意深く対すること。自分自身の疑問を大切にすること。いま、目の前で起きていることを、「当たり前」であると思わないこと。</p>
履修上の注意	<p>疑問点は、まず辞書で調べること。講義にでてくることばを、自分の辞書で確認し、辞書の意味とどの点で一致し、どの点で異なるのかをしっかりと考えること。自分の(?)を必ず、メモしておくこと。毎回添付する「資料」を、自分なりに工夫して、一覧にしておき、繰り返してフィードバックできるようにしておくこと。</p>
準備学習と課題の内容	<p>毎回、添付する資料については、講義で説明をするが、次回の講義とも密接に関連しているので、次回の準備学習として、一時間程度の熟読をしておくこと。疑問点には?をつけ、資料を自分なりに立体化することが必要。</p>
ディプロマポリシーとの関連割合(必須)	<p>知識・理解:10%, 思考・判断:20%, 関心・意欲:50%, 態度:10%, 技能・表現:10%</p>
DP1 知識・理解	
DP2 思考判断	
DP3 関心意欲	
DP4 態度	
DP5 技能・表現	